

わからなかった点、疑問や質問、ご意見など自由に記載してください。	回 答
<p>合成コントロール法は、簡易的にするなどして、自治体の自前で使用できるものでしょうか。</p>	<p>合成コントロール法自体を利用とすると、統計分析のスキルが必要となります。 ただしその考え方はシンプルですので、例えば周辺自治体や規模の近い自治体の平均値と比較することによって、簡易的に分析することは可能です。</p>
<p>インフラ整備(道路,住宅など)に関するエビデンスやPICOの事例が有れば教えていただきたいです。</p>	<p>インフラはランダム化比較試験のような手法を適用しにくいいため、エビデンスが蓄積されにくい分野かと存じます。 ただまったく別のアプローチで分析している事例はあり、例えばこちらが該当します。 https://premium.toyokeizai.net/articles/-/25413 (無料会員登録が必要になります)</p>
<p>広島や海士町の取り組みは興味深く拝聴しました。特に海士町の合成コントロール法というのがきになりました。先生のお話の中で、ある程度の部分までは内製でできるようになれば。。。ということだったので、職員でもできるような実践例などを具体的に聞いてみたいと思いました。</p>	<p>合成コントロール法については、上述の方法で簡易的に分析することが可能です。 中長期的には、政策大学院等の修了者を少しずつ行政内部に増やしていくことが出来ればと考えております。</p>
<p>横の繋がりが出来るグループワークは良いと思いました。ただ、もう少し時間が欲しかったです。</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。 ご指摘を参考にさせていただき、次回よりワークの時間に余裕を持たせる形を予定しております。引き続き自治体様同士での情報交換の機会を設けさせていただいてと考えております。(事務局)</p>
<p>他の自治体とのワークショップがあったのは大変面白かったです。 時間が短かったので、意見交換などができなかったのは少し残念ですが、今後もこのような自治体間のやりとりがあると面白いと思います。</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。 今後も今回のようなグループワークをはじめ、能動的にご参加いただけるような形を検討しております。こうした形式での展開ができるのではないかなど、ご要望がございましたら是非お気軽にご提案くださいませ。(事務局)</p>
<p>前回の質問に対して、非常に丁寧に御回答いただき、ありがとうございました。よく理解することができました。 今回のような参加型の講義は、刺激的であり、楽しむことができました。今後も、こういう方式の講義を展開していただくことを希望いたします。 ありがとうございました。</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。 今後も今回のようなグループワークをはじめ、能動的にご参加いただけるような形を検討しております。こうした形式での展開ができるのではないかなど、ご要望がございましたら是非お気軽にご提案くださいませ。(事務局)</p>

本日の講義で、新たな発見・新たな気づきは何かありましたか？ あった場合は、具体的にどのような発見・気づきであったか記載してください。

海士町の高校魅力化のお話を大変興味深く拝聴しました。
政策を行う上で何がボトルネックになっているのかを深く掘り下げることでよりの確な分析を行うことができるのだと理解しました。

EBPMの具体的な取り組み状況を紹介していただき、広島県の事例は新たな発見でした。

広島県の政策立案プロセスを5つのステップに分けて整理している点や、海士町の高校魅力化の効果分析手法などが参考になった。
また「問題を構造化してボトルネックに働きかけなければ、そもそも真に有効な施策となれない」というのが印象に残った。本市では、問題の構造化、ボトルネックは何かという議論が弱く、思い付き、手法ありきで事業化されるものがあると感じている。問題の構造化は難しい面もあるが、より有効な事業を実施するために、重要な観点であると思った。

EBPMは「完璧で、学術性の高いものを目指すもの」ではなくて、「意思決定をサポートするために、フレキシブルに活用すべきである」ことが理解できました。また、アウトカム志向≠アウトカム重視であることも分かりました。この2点を理解したことで、より取り組みやすくなったような気がします。
地方自治体では、政策・施策の検討過程において、よく他自治体との比較を行います。が、実はこうしたこともEBPMの考え方に基づいてものであることを知ることができました。

ワークシートで実際にPICOを考える中で、ボトルネックを明確にすることが重要だとよくわかりました。
PICOのCの部分で、誰と比較してというところが難しく感じました。同じ条件の中で正確な結果が得られる場合はかなり限られると思いました。

まちへの愛着を育てる事業など、成果を図りづらい事業があり、合成コントロール法を用いた分析を行ってみたいと思った

他自治体の取り組みで評価の測定方法について勉強させてもらいました。比較の対象が実際がない場合に合成コントロールを作成して比較したのは興味深いものでした。
PICOに当てはめて、評価方法を検討していくのは、整理しやすいと感じたので業務で活用していけたら思いました。

本日の講義で、自地域の政策に何等か取り組めるヒントを得ることができましたか？ あった場合は、具体的にどのような点が政策のヒントになりましたか？

国内自治体における実践例は参考になりました。

具体的な事例はすべて参考になりました。小林先生もおっしゃっていましたが、他の自治体の事例のデータベースのようなものがあると非常に参考になると思いました。

事業のロジックモデルを作成し、エビデンスを参照する点

EBPMからは少しそれた話になりますが、事例紹介をお聞きし、また他自治体と意見交換をしましたところ、どこも抱えている課題は似ているということが分かりました。今回、このような機会をいただき、情報を共有できましたことは、今後の本市の施策展開において非常に有意義だと感じております。